

公開シンポジウム

核の脅威に

どう対処すべきか



北東アジアの非核化と安全保障

2017年9月3日、北朝鮮は6回目の核実験を実施し、「大陸間弾道ミサイル（ICBM）搭載可能な水爆実験に成功」と発表した。一方、9月20日、国連では「核兵器禁止条約」の署名式が行われ、核兵器廃絶に向けて歴史的な一歩が記された。果たして、北朝鮮の核の脅威にはどう対応すべきか。核兵器廃絶に向けて、核兵器禁止条約は本当に有効なのか。唯一の被爆国でありながら、核の傘に守られている日本はどう対応すべきか。本シンポジウムは長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）を中心に、東京大学、広島市立大学、一橋大学等の研究者が、科研費「核廃絶実現に向けての促進・阻害要因の分析と北東アジアの安全保障」（平成27、29年度）の成果を踏まえて、今後の核の脅威への対応と北東アジアの安全保障について討論を行う。

科研費結果発表 → パネル討論

発表者 & パネラー



中村 絳子
RECNAスタッフ



鈴木達治郎
RECNAセンター長・教授



広瀬 潤
RECNAセンター長・教授

入場無料
要事前申込



吉田 文彦
RECNAセンター長・教授（コーディネーター）



太田 昌克
共同議長委員・RECNA委員・教授



2017 11/23 木 (13:30~16:30)

場 所 東京大学伊藤国際学術研究センター中教室
東京都文京区本郷7-3-1

申込先 ◆前日まで：長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）
TEL:095-819-2164
Email/recna_staff@ml.nagasaki-u.ac.jp

◆当日のみ：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障ユニット
TEL:03-5841-0935
Email/ssu@pari.u-tokyo.ac.jp

主催 長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）

共催 東京大学政策ビジョン研究センター 安全保障研究ユニット



東京大学政策ビジョン研究センター
Policy Alternatives Research Institute



※専用の駐車場はありません。お車での来場はお願いしております。